

企業情報

1 損益の状況

「*」がついた用語については、下欄の用語集をご参照ください。

1. 業績ハイライト

実質業務純益は、法人与信関連等の手数料関連利益が好調に推移したことから、2023年10月に100億円の上方向修正した通期予想（3,300億円）をさらに上回る3,386億円の実績となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、将来の期間損益に与えるリスク縮減を目的としたベア投信の損失処理を実施した結果、791億円となりました。

なお、当該損失処理による資本への影響はなく、期初予想に沿った配当を実施いたしました。

2. 実質業務純益

法人与信関連手数料や、株高・円安などの市況要因も追い風とした資産運用・資産管理関連手数料が好調に推移したことから、実質業務純益（連結）は、前年度比140億円増益の3,386億円となりました。また、2023年10月に期初想定を100億円上方向修正いたしましたが、これを上回る実績となりました。

3. 資金関連利益

資金関連利益にその他業務利益に含まれる外貨余資産運用益と合算した実質的な資金関連の損益（連結）は、前年度比106億円減益の2,899億円となりました。前年度に計上した債券ベア投信解約益の剥落があったことが減益の主な要因です。

4. 手数料関連利益

法人与信関連手数料に加え、株高・円安などの市況要因も追い風として資産運用・資産管理関連の手数料も好調に推移したことから、手数料関連利益（連結）は、前年度比295億円増益し、4,788億円となりました。

5. 親会社株主に帰属する当期純利益

2023年10月に公表の通り、2023年度中のベア投信の損失処理を推し進めた結果、親会社株主に帰属する当期純利益（連結）は、前年度比1,118億円減益の791億円となりました。ベア投信の損失処理により、将来の期間損益に与えるリスクを縮減することができ、利益目標達成の確度は向上しました。

三井住友トラスト・ホールディングス（連結）

（単位：億円）

	2023年度	前年度比
実質業務純益*	3,386	140
経常利益	1,013	△1,845
親会社株主に帰属する当期純利益	791	△1,118
与信関係費用*	△118	△14
株式等関係損益	△1,885	△1,915
自己資本ROE※1	2.68%	△4.25%
1株当たり純資産（BPS）	4316.77円	473.51円
1株当たり当期純利益（EPS）	109円	△149円

※1 $\frac{\text{親会社株主に帰属する当期純利益}}{(\text{期首自己資本} + \text{期末自己資本}) \div 2} \times 100$

三井住友信託銀行（単体）

（単位：億円）

	2023年度	前年度比
実質業務純益*	2,759	300
資金関連利益*	△854	△2,188
手数料関連利益*	2,112	179
特定取引利益	759	654
その他業務利益	3,644	1,933
経費	△2,901	△278
与信関係費用*	△115	8
臨時損益等	△2,056	△1,968
経常利益	587	△1,658
特別損益	△37	△34
当期純利益	578	△1,112

（注1）金額が損失または減益の項目には△を付しています。
（注2）記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しています。

配当

	2023年度	前年度比
1株当たり配当金（普通株式）※2	110円00銭	+5円00銭

※2 2024年1月1日を効力発生日とする株式分割（2分割）を加味した調整後の金額

用語集

実質業務純益

経常利益から、与信関係費用や株式等関係損益などの臨時的な要因の影響を控除したもので、実質的な銀行の本業の収益を表すものです。

与信関係費用

貸出金などに対する引当金の計上や償却処理に要した費用のことです。

資金関連利益

貸出金や有価証券運用による収入から、預金などに支払った利息を差し引いた収支のことです。

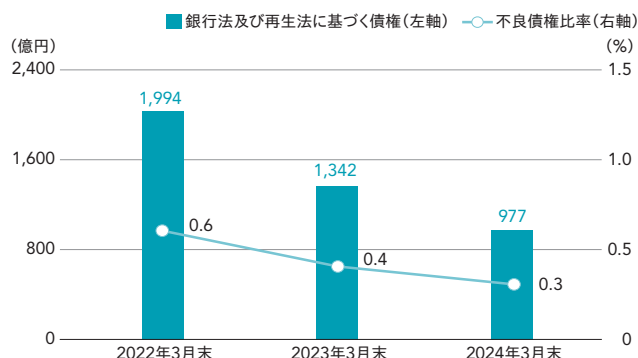
手数料関連利益

投資信託の販売や不動産仲介手数料、受託財産に係る信託報酬などの収支のことです。

2 財務の状況

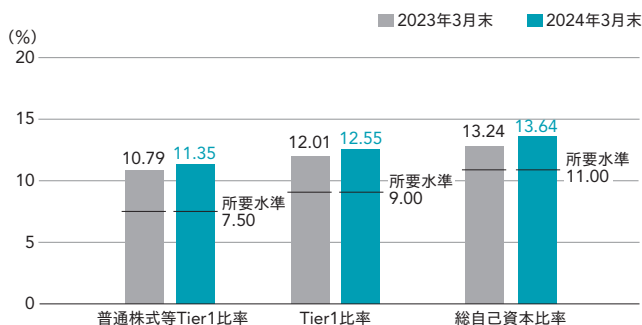
1. 銀行法及び再生法に基づく債権（単体）

銀行法及び再生法に基づく債権の残高は、前年度末比365億円減少し977億円となりました。また、開示債権比率は同0.1ポイント低下した結果、0.3%となり、引き続き低水準を維持しています。また、担保および引当金による保全率も、危険債権が83.1%、要管理債権が57.7%と、十分な水準を確保しています。



2. 自己資本比率等

普通株式等Tier1比率は、純利益の積み上げおよび株価上昇に伴う資本の増加を主因に前年度末比0.56ポイント上昇し11.35%となりました。総自己資本比率は同0.40ポイント上昇し13.64%となりました。いずれも引き続き、規制上の所要水準である7.50%、11.00%を十分に上回る水準を確保しています。



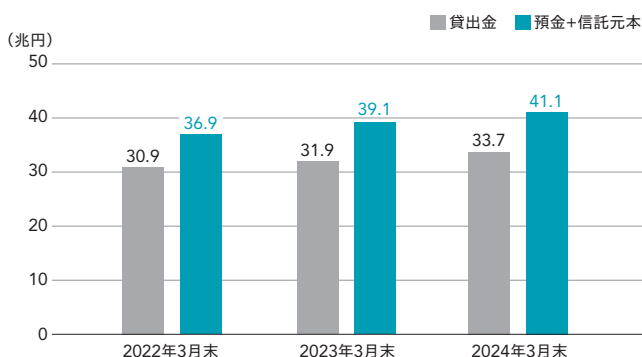
※2024年3月末よりバーゼルIII最終化を適用

3 資産・負債等の状況

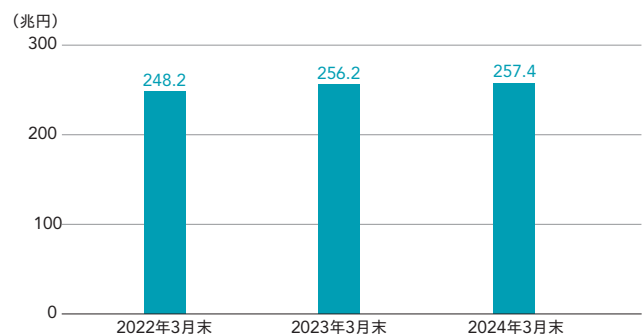
1. 貸出金・預金（単体）

貸出金は、法人向け貸出残高の増加を主因に前年度末比1.8兆円増加し、33.7兆円となりました。預金等は、法人からの預金の増加を主因に同2.0兆円増加し、41.1兆円となりました。

※預金等は譲渡性預金を除き、元本補てん契約のある信託を含みます。



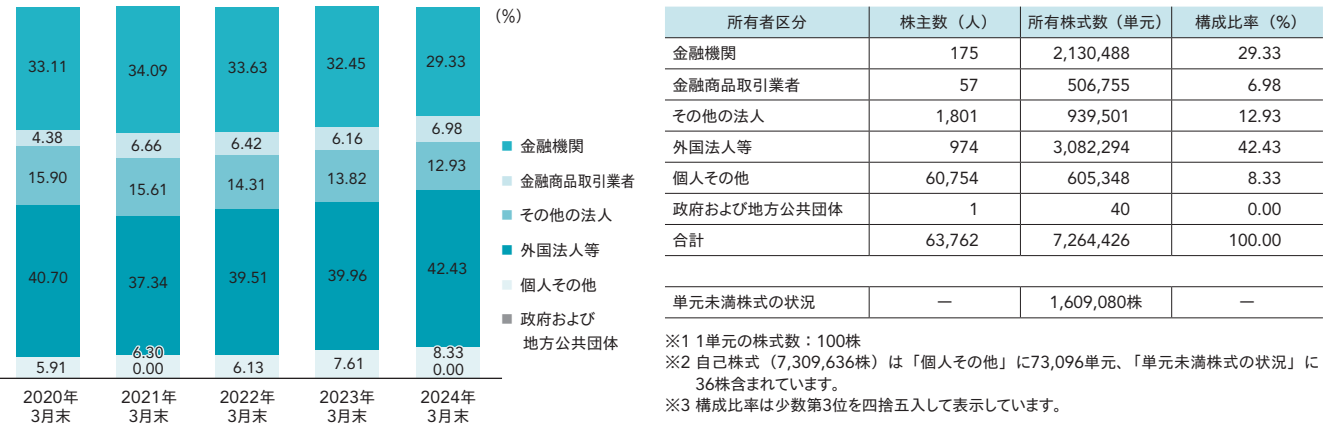
2. 信託財産残高（単体）



4 当社の概要（2024年6月末現在）

商号	三井住友トラスト・ホールディングス株式会社
本店所在地	東京都千代田区丸の内1-4-1
設立日	2002年2月1日（2011年4月1日 商号変更）
主な事業内容	信託銀行を中核とする、三井住友トラスト・グループの経営管理機能を担う金融持株会社として、以下（1）～（8）を主な機能としています。 （1）経営戦略企画統括機能（2）財務統括機能（3）人事統括機能 （4）総務統括機能（5）業務プロセス統括機能（6）リスク管理統括機能 （7）コンプライアンス統括機能（8）内部監査統括機能
資本金	2,616億872万5,000円
発行済株式総数	普通株式721,355,380株
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場、名古屋証券取引所 プレミア市場
証券コード	8309

5 株主構成（普通株式）（2024年3月末現在）



6 格付情報（2024年6月末現在）

		長期	短期
三井住友トラスト・ホールディングス	日本格付研究所（JCR）	AA	—
	格付投資情報センター（R&I）	AA-	—
三井住友信託銀行	スタンダード&プアーズ（S&P）	A	A-1
	ムーディーズ（Moody's）	A1	P-1
	フィッチ・レーティングス（Fitch）	A-	F1
	日本格付研究所（JCR）	AA	—
	格付投資情報センター（R&I）	AA-	a-1+

100周年特設サイトのご紹介

ブランドムービーやロビー展、創業100周年記念誌など、100周年事業に関するさまざまな取り組みをご紹介します。



<https://www.100th.smth.jp/>



ディスクロージャー誌

三井住友トラスト・ホールディングスのディスクロージャー誌（本編〔統合報告書〕・資料編）は、当社のウェブサイトでご覧いただけます。



（日本語） <https://www.smth.jp/investors/report/disclosure>

（英語） <https://www.smth.jp/english/investors/report/disclosure>



（日本語）

シンボルマーク・コーポレートカラー



シンボルマーク

当グループのシンボルマークであるフューチャーブルーム（未来の開花）は、「信託の力で、新たな価値を創造し、お客さまや社会の豊かな未来を花開かせる」という私たちのパーパスを象徴しています。

透明感のある4つの花卉は、お客さま・社会・株主・社員の各ステークホルダーに対する私たちのミッションを表すとともに、それぞれの色彩は、私たちのバリュー（行動規範）である「信義誠実」（ナチュラルグリーン）、「奉仕開拓」（ゴールデンオレンジ）、「信頼創造」（ブルーグリーン）、「自助自律」（スカイブルー）を表しています。



コーポレートカラー

コーポレートカラーは、シンボルマークが表現する価値観を統合し、親しみやすさとともに未来を感じさせる「フューチャーブルー」としました。

- 本誌は銀行法第21条および第52条の29に基づいた説明書類であり、当社のディスクロージャーポリシーに則り適切に開示しています。
- 本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものであることにご留意ください。